

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 5年 5月 15日

事業所名 児童サポートこころ

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	6	0	活動を室内・庭に分けて行っている。	
	2	職員の配置数は適切である	6	0		
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	6	0		階段の手すり等を設置し、今後も環境整備に取り組んでいく。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	6	0		活動に合わせて、環境整備を徹底している。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	6	0		PDCAサイクルを日頃から意識している。今後も継続していく。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	6	0		保護者の意向やご意見を職員で話しあい業務改善を行っていきます。
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	5	1		事業所内に掲示しているが、ホームページの作成中。
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	3	3		
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	5	1		今後も研修の参加を、全職員へ周知徹底していく。
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	6	0		適切にアセスメントを行い、他事業所とも幅広く情報が得られるよう連携している。
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	6	0	アセスメントツールを使用しています。	
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	6	0	いつでも児童発達支援ガイドラインが見れるよう設置している。	現在行っている、支援評価を今後も徹底して、モニターリングを行う。
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	6	0		個別支援計画の見直しを定期的に行い、支援に繋げている。
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	6	0		児童が積極的に参加できるプログラムの作成にチームで行っている。
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	6	0		年間プログラムを作成し、固定化しないよう季節を取り入れた活動に力を入れている。
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	6	0		個別活動と集団活動のニーズを把握し、組み合わせで作成している。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	6	0		毎日のミーティングにて昨日の振り返りを行い、当日利用児童に対してのアセスメントを行い、役割を決めている。
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	6	0		毎日、振り返りのミーティングを行い、その日の課題をその日で整理できる様にしている。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	6	0		電子システムを活用し、円滑に記録が行えるよう努めている。定期的に、記録の見直しを行っている。
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	5	1	毎日の、ミーティングの中で、関わり方について協議を行っている。	課題整理を行い、全職員にて計画の見直しを行っている。
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	6	0		ふさわしい方だけの参加で、他の職員への伝達も並行して行っている。
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	6	0		積極的に、情報共有を行っており、今後も、継続しておこなっていく。
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	3	3		現段階では、医療ケア児はいない必要時に、連携を強化していく。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	3	3		現段階では、医療ケア児はいないが、協力医療機関と連携を行い定期的に、勉強会を開催している。
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	5	1		積極的に、情報共有を行っており、今後も、継続しておこなっていく。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	6	0		積極的に、情報共有を行っており、今後も、継続しておこなっていく。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	4	2		オンラインでの開催ではあったが、職員のスキルアップも含め積極的に、今年度も参加していく。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	3	3		コロナ過で、集団活動の自粛を行っていた為、今年度は、状況を見て開催を予定していく。地域の学童と小人数での交流会を予定している。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	2	4		今年度より、積極的に参加していく。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	6	0	毎日の、ミーティングの中で、関わり方について協議を行っている。	保護者との関りを日頃、大切に行っているため、今後も対応と継続していく。
31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	4	2		ペアトレに関する理解を行い、今年度は、研修を行いながら、親子参加型の活動を行う予定。	
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	6	0		個別支援会議の中で、定期的に聞き取りを行っている。
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	6	0	いつでも児童発達支援ガイドラインが見れるよう設置している。	全職員が、児童発達支援ガイドラインを意識し、支援に行かせるように研修を継続して行っていく。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	6	0		利用児以外の事も、母親の悩みを聞けるよう全職員で意識し、必要に応じて面談を行うようにしている。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	3	3		コロナ過で集会を控えていた為、今年度は、積極的に開催を行っている。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	6	0		現段階で、苦情はないが、ヒヤリハット等を完結的に、報告を行い、苦情に繋がらないよう努力している。又、送迎時や保護者との対応する際に、積極的に情報交換を行えるよう全職員で対応を行っている
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	5	1		会報以外に、LINE等で活動内容や活動報告を行っており、保護者と連携が取れるよう行っている。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	6	0		個人情報取扱いについてのマニュアルを周知し、今年度は、勉強会を行う予定。
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	6	0	毎日の、ミーティングの中で、関わり方について協議を行っている。	ミーティングの中で、日頃の対応について協議を行っている。
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	3	3		コロナ過で、地域との交流を控えていたので、今年度は、地域交流を行っている。
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	6	0	スタッフ一人一人が理解できるよう作成している。	年に1回、緊急対応、防犯、マニュアルの見直しを行っている。感染症対応マニュアルに関しては協力医療機関と連携を行いながら、研修を開催している。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	6	0		年に6回の避難訓練を実施している。今後は、応急処置訓練も研修課題として取り入れていく。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	2	4	対応マニュアルを掲示し即座に対応できるよう徹底している。	関係医療機関と連携し、勉強会を開催している。
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	3	3		現段階では、食物アレルギーの児童はいないが、病院と連携し研修会を開催していく。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	6	0		虐待研修を行いながら、日頃のミーティングの中で振り返りを行っている。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	5	1		現段階で、対象児童がいらないが、事業所内研修を行っている。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	3	3		現段階で、対象児童がいらない。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。